安心と希望のある「香川」を目指す

――浜田恵造・香川県知事に聞く――

気候が温暖で、自然災害が少なく、交通インフラの整備や大型商業施設の集積なども急速に進んでいる香川県。製造拠点などの地域分散を考える企業にとっては、魅力あふれるところだ。その香川県の浜田恵造知事に、現在進めている企業誘致策や、県の将来性などについて話を伺った。

浜田　恵造（はまだ　けいぞう）
1975年東京大学法学部卒、大蔵省入省。山形県総務部長、大蔵省理財局国債課長、東海財務局長、地方分権改革推進会議事務局次長、東京税関長、日本高速道路保有・債務返済機構理事などを経て、2010年９月香川県知事に就任（現在１期目）。香川県出身、61歳。

災害の少なさ、交通網の発達背景に
データセンターなど企業立地進む

情報技術を生かし医療・福祉も充実

――知事が進めておられる県の経済活性化への取り組みについて、概要をまず教えてください。

浜田　2010年の就任以来、産業育成、県産品の振興、交通・情報ネットワークの整備、防災・減災対策など、様々な課題に取り組んできました。11年12月には新たな県づくりの指針として「せとうち田園都市香川創造プラン」を策定。「元気の出る香川」「安心できる香川」「夢と希望あふれる香川」の実現を目指して、重点施策に取り組んでいるところです。

特に、力点を置いているのが、足腰が強く競争力の高いものづくり産業の育成で、その基本方針となる「香川県産業成長戦略」の策定を、現在進めています。具体的には、地域の強みである希少糖やオリーブ、医療分野などを成長産業に育成し、雇用の確保・拡大にもつなげていくことを目指しています。

また、企業誘致にも力を入れています。工場だけでなく、データセンターなどの立地を、企業誘致助成金制度や各種優遇措置を活用することにより、積極的に促しています。

――香川県の立地上の魅力、アピールポイントはどこになりますか。

浜田　一番に災害が少ないことです。瀬戸内海沿岸は、歴史的にみて地震や津波災害のリスクが低く、本県は自然災害による被害の少なさでは、全国都道府県別で3位（2010年）。震度5弱以上の地震発生回数は、過去30年間で1回だけです。

鉄道、空港、道路などのインフラも発達しています。瀬戸大橋をはじめ、高松自動車道などの高速道路の整備が進んでいますし、空の便も高松―東京便などの国内線のほか、国際線の拡充が進みつつあります。ソウル便に加え、11年7月には上海便が就航。3月には台北便も就航しました。

そして、医療・福祉の充実で暮らしやすさを実感してもらえる取り組みを進めていることも、アピールできる点です。遠隔地での画像診断などを通じて医療機関の連携を進める「かがわ遠隔医療ネットワーク（K―MIX）の実用化や、K―MIXを基盤として電子カルテ機能を統合したテレビ会議システムの開発など、情報通信技術を生かした取り組みを他県に先駆けて実施しています。

希少糖分野はじめ香川ブランド育成

――企業の誘致など、具体的な成果について教えてください。

浜田　特に大手加工でんぷんメーカーの進出が特筆できます。この工場では、既存の砂糖・液糖や機能性甘味料の代替となる希少糖「D・プシコース」を含有するシロップが生産されることになっており、今年夏の稼働に向けて建設が進められています。

また、自然災害が少ないという点が高く評価され、高松市内で西日本最大規模となるデータセンターの建設が進められているほか、大手コンビニエンスストアの四国への進出に伴い、坂出市に弁当や惣菜などを製造する専用工場が新設されることが決定しています。

――地元企業の活性化という点で、今後期待できる分野は何でしょうか。

浜田　1つは先ほど挙げた希少糖の分野です。「D・プシコース」は、食後の血糖値上昇の抑制作用を持つ食品として、特定保健用食品の申請を行っています。他にも様々な機能解明が期待されますので、産学官連携を一層進め、研究開発から生産、販売に至るまで総合的に推進する「希少糖クラスター」を形成し、世界に通じる「香川の希少糖」ブランドを確立したいと思います。

また、香川といえばオリーブです。オリーブの生産振興、多角的な新商品開発や商品の品質向上、ブランド力の強化を総合的に推進します。オリーブを飼料にして育てた、オリーブ牛、オリーブハマチなどの生産拡大にも力を入れていきます。

――災害が少ないといっても、企業を誘致するにあたっては、防災意識を高めていただくことが必要ですね。

浜田　東日本大震災で大きな問題となったのがサプライチェーンの崩壊です。企業にはリスク分散、すなわち工場配置の見直しや、部材・部品調達先の拡大の動きがあると感じています。また、緊急事態に遭遇しても、中核事業を早期に復旧し継続することで企業を守るための、BCP（事業継続計画）策定の意識が高まっています。

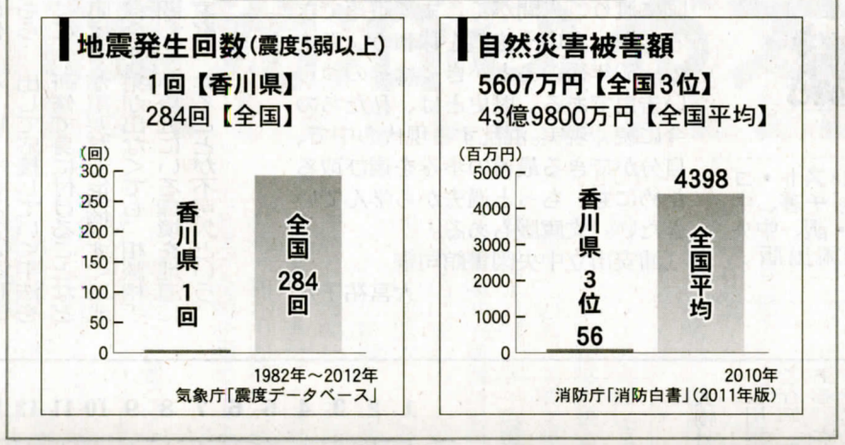
特に情報通信インフラは、メール、ネットショッピングなどの普及で、欠かすことのできない重要なインフラとなっていますので、万が一に備えてシステムやデータ保管の地方分散に非常に高い関心が寄せられています。その意味で、香川県の安全性が評価され、西日本最大規模のデータセンターが本県に建設されるということは、極めて意義が大きいと考えます。

観光産業も振興し流入人口を増やす

――最後に、今後の香川県について、知事の思いをお聞かせください。

浜田　我が国の政治・経済・産業には、克服していかなければならない幾重もの難題があります。地域にも人口減少や産業空洞化など、厳しい問題が山積しています。特に私が常に念頭においているのは、少子化・生産年齢人口の減少の問題です。

この問題を克服するためには、まず観光振興などで、国内外からの流入・交流人口の増加に努めなければなりません。そして、地域への移住者の増加にもつなげる必要があります。香川県は昨年、県外転入と転出の差がプラスになり、人口の社会増を達成しましたが、これを一過性のものとせず、さらに出生率の上昇、人口の自然増へとつなげていきたいと思います。

私の好きな言葉に、「着々寸進　洋々万里」という言葉があります。大きな目標に向かって、少しずつではあっても着実に前進していきたいと思っています。

自然災害のリスクが低い香川県